

盲学校 支援だより

No. 1 石川県立盲学校



平成27年5月19日

今年度も、昨年度に引き続き「盲学校 支援だより」を発行することになりました。視覚に困難さのある子ども達の支援に、少しでもお役に立てるように情報提供に努めたいと考えています。今回は、Q&A形式で盲学校について紹介いたします。



盲学校って どんな学校ですか？

盲学校には、全く見えない「全盲」をはじめ、治療が難しく眼鏡をかけても0.3以上の視力が出ない「弱視」等、見え方に困難さのある子ども達や成人の方が学んでいます。

本校では、小学部、中学部、高等部、理療科があります。詳しい内容については、ホームページでも紹介していますのでご覧ください。

あらかじめお電話いただければ、学校見学も可能です。年間行事としては、以下の日程で学校公開を行っていますので、お気軽に参観ください。

5月30日(土)	運動会 (雨天中止)
7月 6日(月)~10日(金)	公開授業週間
10月31日(土)	文化祭
11月 4日(水)~ 6日(金)	公開授業週間



**現在、学級内に弱視の児童が在籍しています。
どんな配慮が必要ですか？**

弱視の場合、いくら視力があるといっても、見える範囲が非常に狭かったり、まぶしさに非常に敏感だったり、ぼんやりとして輪郭もわからなかったり等、その見え方は一人一人違います。

ですから、どのように見えているのかを把握することが、とても大切になってきます。

基本的な支援の考え方としては、①教室や教材・教具等本人が見えやすくなるための「**環境の整備**」と②本人の視力を有効に使えるようにするための「**補助具の活用**」が必要です。

通常学級ですぐに取り組めるものとしては、次のようなものがあげられます。

・**文字等のサイズ**を見やすいものにする。

(単に拡大すればよいというものではありません。拡大すると目を動かさなければいけない範囲が広がり、かえって見えづらくなる場合もあります。)

・**コントラスト**を強くする。曖昧な色であれば縁取りして境界をはっきりさせる。

・**まぶしさや明るさ**への配慮をする。

まぶしくて見えにくい場合…カーテンを使う、真っ白い紙は反射するので薄い色にする等
暗くて見えにくい場合 …個別に電気スタンドを準備する等



私の学校(学級)には、そのような見えにくさのある児童生徒はいないと思うのですが…

弱視の場合、見えにくさがあっても、本人は小さい時からそのような見え方をしているため、自分の見えにくさに気づいていません。また、見えにくさがあっても、なんとか日常生活ができていようにみえるので、障害についての周囲の理解が得られにくく、特別な教育の必要性に気づかれないままになっていることがあります。

見えにくいと、集団行動が遅かったり、作業が遅れたり、不器用だったりなどの行動につながる場合が少なくありません。もしかして、問題となっている行動の背景に「見えにくさ」があるかもしれません。思い当たるようなことがあれば、ぜひ、本校の教育相談までお問い合わせください。



**視覚障害について学びたいのですが
研修会はありますか？**

今年度 本校が予定している研修会は以下の通りです。いずれも、**詳細が決まり次第ホームページに掲載しますので、申込書をダウンロードしFAXにて申し込みしてください。**

7月22日(水)午後 中野泰志 先生(慶應大学 教授) 会場 本校

7月23日(木)午前 中野泰志 先生(慶應大学 教授) 会場 奥能登行政センター

8月 3日(月)一日 小林秀之 先生(筑波大学 准教授) 会場 本校

今年度「盲学校支援だより」は、本校ホームページに記載することになりました。ホームページには、本校の児童生徒の様子や、教育相談の申込書等も載っています。
ぜひ、ご活用ください。

